

建設企業常任委員会行政視察概要

令和5年8月8日（火）

於 川越市議会 委員会室

午後1時45分～午後4時

1 調査概要・説明…………… 川越市都市計画部交通政策課副課長

都市計画部交通政策課公共交通担当主査

「公共交通の整備について」

川越市における公共交通の整備について、本市からの事前の調査事項に基づき、公共交通の現状と都市・地域総合交通戦略、その後市内循環バス「川越シャトル」とデマンド交通「かわまる」について説明を受けた。

現在、川越市では既存の鉄道、路線バスが通っているが、高齢者、障害者等の交通手段の確保を目的に、市内循環バスの「川越シャトル」、デマンド型交通「かわまる」を導入している。どちらも運行経費から運賃収入を差し引いた金額を市が補助しており、「川越シャトル」については、13路線走行しているが、運行目標を1便あたり8.0人としている。令和4年度は5路線のみ基本目標を超えている。利用者が少ない便などもあり、増便の希望があっても実施する余裕がなく、今後とも効率的な運行を計画していく必要があるなどの課題もあった。



2 主な質疑応答

問 本市でも課題となっているが交通

系ICを導入時のシステム改修経費について教えてほしい。

答 「川越シャトル」については全額市が補助している。また、更新費用についても全額市が払っている。1社導入が遅れていたところも、オリンピック開催時に公共交通の利便性を高める目的で、国による補助もあり、遅れはしたが導入している。デマンド交通「かわまる」についても市から補助している。

問 投資をした分だけ効果はあったのか。

答 「川越シャトル」は利用者の46%が現金・ICカードのため効果があったと認識している。「かわまる」は2割ほどの利用のため導入効果は高くないと感じている。

問 「かわまる」の料金設定について教えてほしい。

答 タクシーと路線バスの中の乗り物ということで、料金もその中間として500円と設定している。距離による料金の変動はない。収支率が低いため、高齢者や障害者も受益者負担をしてもらうべきという意見があり、無料ではなく300円としている。

問 路線バスが昔は1時間に4本あったのが、今は1時間に1本走っている。どうやって川越市は増便させたのか。

答 「川越シャトル」は、利用が多い路線でも1時間半に1本という状況である。増えたのは民間の路線バス。街中を走っている路線バスは観光客が戻ってきた影響もあり、少しずつ増えている。「川越シャトル」は少ない路線だと1日2便のところもあり、非常に利用が少ない路線もあるのが現状である。しかし、路線を廃止すると交通空白地域になり地域の足がなくなるため、慎重にやっている。ただし、現在はデマンド型交通もあり、路線を廃止してもカバーできるという考えもある。

問 交通空白地域に「川越シャトル」ではなく、「かわまる」を導入した理由は。

答 対策としては、デマンド型交通、ミニシャトル、タクシー補助などがあったが審議会で議論して最終的にデマンド型を導入している。理由としては他の手法より財政負担が安価でできる点である。

以上